

国営いさわ南部地区における環境配慮に対する住民の評価

Evaluation by local people for environment conservation in the Isawa-nanbu land consolidation project

広田純一* , 鈴木さとみ**

HIROTA Jun-ichi, Suzuki Satomi

1. はじめに

国営農地再編整備事業いさわ南部地区は、全国に先駆けて本格的な環境配慮を行ったことで知られ、平成 14 年度には農業土木学会賞上野賞を受賞している。本研究では、この事業の中で現況保全した溜池と水路や、環境に配慮して整備した水路や付帯施設に対して、地域住民がどのように評価しているかをアンケート調査により明らかにする。

2. いさわ南部地区における環境配慮の概要

本地区は受益面積 1,083ha（区画整理と農地造成）、平成 8～9 年度に地区調査を実施し、事業は平成 10 年度に採択されて、平成 21 年度に完了予定である。当初は地区南部の 707ha を対象に事業着工したが、平成 15 年度に計画変更によって西部の 376ha が編入されている。本地区では計画段階からの環境配慮のために、平成 8 年度に田園景観検討委員会が設置され、平成 10 年度からは生態系保全調査検討委員会が発足して現在に至っている。本地区の環境配慮の特徴は、計画段階から地区全体を対象とした総合的な配慮を目指した点であるが、その一方で、実際に行なった溜池や幹線水路など基幹施設レベルの配慮が中心で、水田まわりの配慮は現在のレベルから見ると必ずしも十分ではない¹⁾。

3. アンケート調査の概要（表 2）

調査対象はいさわ南部地区内の 5 集落（中沢、二ノ台、屋白、駒込、上狼ヶ志田）の全世帯 304 戸であり、行政区長を通じて各世帯 2 通ずつ配布し、回収は郵送とした。設問数が多いことを考慮し、設問内容の違う 2 種類の調査票（タイプ A、タイプ B）を用意した。配布・回収は平成 18 年 12 月 15～28 日に行い、回収数は 80 通、回収率は 26% に留まった（平成 19 年 1 月 15 日現在）。

表 1. いさわ南部地区での環境配慮措置

方法	事項
回避	施工対象からの除外
	旧水路（土水路）:3路線
	溜池:7ヶ所
	小区画水田 約30アール
	湿性休耕地:1ヶ所
最小化	独立木:1ヶ所
	幹線排水路での環境配慮
	2面張りの採用
	空石積みの採用
	瀬・淵・よどみ等の確保
	階段落差工の設置
	魚巢ブロックの設置
	小排水路での環境配慮
	脱出スロープ等の設置
	水路のふたかけ
修正	法面での環境配慮
	在来種による植栽
軽減・消失	該当なし
代償	生物の移植
	ハッチョウトンボ
	魚類
代償	植物
	生息地の復元
代償	ハッチョウトンボ、両生類など

表 2. アンケートの設問項目

	設問項目	調査票
A	回答者の属性	共通
B	事業内容の認知度・環境配慮への考え方	共通
C	生物の生息数の変化、環境配慮施設の認知度 評価	タイプ
D	現況保全施設の評価	タイプ
E	現況保全施設の活用と維持管理	共通
F	事業の総合評価	共通

* 岩手大学農学部 Iwate University ** 日本生活協同組合連合会 Japanese Consumer Co-operative Union

キーワード：圃場整備，環境配慮，地域住民，アンケート

4. 結果と考察

(1) 回答者の属性：男性が 63 %，女性が 37 %であり，年齢別では 50 代の回答者が一番多くて 36 %，40 代から 70 代までで 93 %を占めた。居住年数は 30 年以上が 76 %に上り，農業生産物を出荷している世帯が 72 %，また 150 日以上の農業従事者が 34 %を占めた。

(2) 生き物への影響：カエル類，魚類，エビ・かに類，貝類について，減少した印象があるかどうか尋ねたところ，8 割以上の回答者が減ったと答え，カエル以外では激減した（またはかなり減った）という回答が 7 割を占めた。減ったことに対しては「仕方ない」と「残念」で 9 割以上を占め，とくにエビ・かに類と貝類は「残念」が多かった。

(3) 環境配慮対策の評価（図 1）：土水路と溜池の現況保全是「良かった」「どちらかと言えば良かった」が 40 %に

対して，「どちらとも言えない」22 %，「良くなかった」「どちらかと良くなかった」が 20 %弱であり，「どちらとも言えない」を否定的判断ととらえれば，賛否がほぼ拮抗している。良くなかった理由としては「維持管理ができない」，「残す意味がわからない」が挙げられている。一方，小動物の脱出工と魚巣ブロックは，「知らない」が 25 %程度を

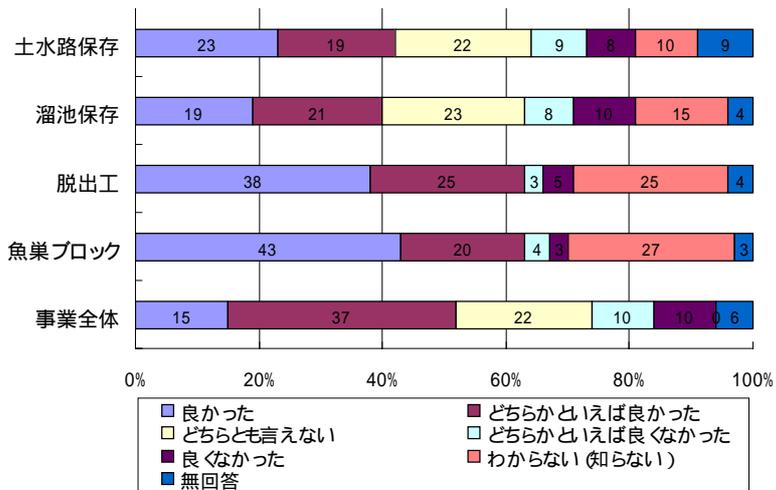


図 1. 環境配慮対策の評価

占めるが、回答した人の中では「良かった」とする回答が多かった。これらは実際の効果がまだ不明であり，維持管理も発生していないことが高評価につながっていると思われる。

(4) 事業の総合評価（図 1，表 3）：「良かった」「どちらかと言えば良かった」で 52 %と，「良くなかった」とする意見の倍以上の評価を得ているが，「どちらとも言えない」を否定的意見に加えると 42 %に達し，評価が分かれている。「良くなかった」が多いのは，営農重視および環境重視という両端の人であり，「良かった」が多かったのは「どちらかと言えば営農重視」の人であった。営農に直接影響する水田周りの環境配慮がほとんどな

表 3. 環境配慮への考え方と事業評価との関係

環境配慮への考え方	事業評価					回答数 N	
			x	x x	無回答		
1. 営農重視	11%	21%	16%	11%	32%	11%	19
2. どちらかと言えば営農	19%	55%	13%	9%	0%	4%	69
3. どちらとも言えない	10%	24%	36%	6%	16%	8%	50
4. どちらかと言えば環境	21%	29%	29%	21%	0%	0%	14
5. 環境重視	20%	20%	0%	20%	40%	0%	5
6. 無回答	0%	0%	33%	33%	0%	33%	3
合計	15%	37%	22%	10%	10%	6%	160

良かった，どちらかと言えば良かった，どちらとも言えない
x どちらかと言えば良くなかった，x x 良くなかった

文献 1) 広田純一，藤崎浩幸（2002） 国営農地再編整備事業いさわ南部地区における環境配慮の実際と課題，平成 14 年度農業土木学会大会講演会講演要旨集：651-652